

第1部

金沢大学附属幼稚園
第58回教育研究会に向けて

第1章 平成23年度の研究について

忍久保武士 中田幸江 草場勇介

1. 研究テーマ

自分づくりを支える保育

2. テーマ設定の理由

(1) 本園の幼児の姿より

本園では、平成21年度に教育課程「学びをつなぐカリキュラム」を作成した。さらに、平成22年度に指導計画を見直し、指導計画「自分づくりを支える生活プラン」を編成した。これらを保育の柱に据え保育を行ってきている。全体的に見ると、発達のだん筋は大きくは変わらないが発達が緩やかになってきていることが教育課程の作成や指導計画の編成を通して明らかとなったⁱ⁾。また、自分の思いをなかなか表現しようとしなかったり、友達とのいざこざを避けようとしたりする幼児の姿も見られるようになってきた。以上のことから、友達とのかかわりの中で試行錯誤を繰り返し、切磋琢磨しながらよりよく生きようとする幼児の姿を探る必要があると考えた。

(2) 幼稚園教育の今日的課題を受けて

平成20年の幼稚園教育要領の改訂において、領域「人間関係」の内容の取り扱い(3)の中で「幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること」ⁱⁱ⁾という記述が新たに加わり、本園でも平成21年に「協同して生活する姿を見つめて」とテーマを設けて幼児の姿を探ってきた。その中で、5歳児後期に友達と協同して生活をすすめていく姿に向かうまでに、一人一人が個(じぶん)をもつことが大切であることを共通理解したⁱⁱⁱ⁾。このことから、幼児の自分づくりの姿を探っていく必要性を感じた。

(3) これまでの研究より

本研究に先立ち、本園では、幼児期の学びを様々な切り口から明らかにし、教育課程に反映させてきている^{iv)}。昨年度は、指導計画を作成し、また、「わくわくワールド」、「なかよしウィーク」という2つの行事における幼児の自分づくりのプロセスを探り、明らかにすることもできた^{v)}。しかし、行事への取り組み方も含め、様々な場での幼児の自分づくりを探っていかなければならないということを感じた。そこで、幼稚園生活全般において幼児の自分づくりの姿を探っていこうと考えた。

(4) 本研究のテーマへ

以上のように、本園の幼児の姿、幼稚園教育の今日的課題、本園のこれまでの研究経緯を踏まえ、今年度、研究テーマを上記のように設定し、幼児の自分づくりを支える環境の構成や教師の援助について明らかにしたいと考えた。

3. テーマの捉え

テーマを設定するにあたり、本園では自分づくりを次のように捉え共通理解をはかってきた。

・自分づくり

本園の捉える自分づくりとは、幼児一人一人が他者とかかわり合うことで、人やもの・こととのかかわり方——ものの見方、感じ方、考え方、表現の仕方など——が変化していくことを表す。

4. 研究の目的

幼児の発達に応じた自分づくりを支える環境の構成と教師の援助を探る

5. 研究の方法

- (1) 各クラスで抽出児を選ぶ（各クラス事例1参照）
- (2) 抽出した幼児の事例を収集し、幼児の「自分づくりの姿」「自分づくりを支える環境の構成」「自分づくりを支える教師の援助」の視点で考察する
- (3) 収集した事例をもとに、幼児の「自分づくりの姿」「自分づくりを支える環境の構成」「自分づくりを支える教師の援助」についてまとめる

*抽出児追跡観察

今年度、各クラス1人の幼児の自分づくりの姿を一年間、追跡観察することにした。それは、抽出児および、抽出児とかかわる周囲の幼児の自分づくりのプロセスが長期的な視点で観察でき、明らかにできると考えたからである。

引用・参考文献

-
- i) 金沢大学附属幼稚園・研究紀要第56集「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて～協同して生活する姿をみつめて～」，2009
 - ii) 文部科学省『幼稚園教育要領』，2008，p. 15
 - iii) 金沢大学附属幼稚園・研究紀要第56集「前掲書」，p93
 - iv) 金沢大学附属幼稚園・研究紀要第54集「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて～幼児の自己表現する姿をみつめて～」，2008
金沢大学附属幼稚園・研究紀要第55集「学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて～幼児の思考する姿を見つめて～」，2009
金沢大学附属幼稚園・研究紀要第56集「前掲書」
 - v) 金沢大学附属幼稚園・研究紀要第57集「自分づくりを支える生活プランの作成」，2011